

## [12] 日向市小体連

### I 年間事業

実施日	事業名	主な内容
5月12日(木)	第1回理事会	役員選出、年間計画
6月9日(木)	第2回理事会	本年度の研究の方向性確認 水泳大会計画案検討
7月1日(金)	第3回理事会	研究内容について、水泳大会計画案
7月26日(火)	水泳大会前日準備	水泳大会前日準備
7月27日(水)	水泳大会、第4回理事会	記録集計、水泳大会反省
8月4日(木)	第5回理事会	研究内容について 陸上大会計画案検討
10月7日(金)	第6回理事会	陸上大会計画案、研究授業指導案検討について
10月27日(木)	陸上大会前日準備	陸上大会前日準備
10月28日(金)	陸上大会、第7回理事会	記録集計、陸上大会反省
12月9日(金)	第8回理事会	研究授業 研究協議
1月24日(火)	第9回理事会	研究内容のまとめ
2月21日(火)	第10回理事会	次年度の方向性について

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳大会

- (1) 大会名 第45回日向市小学校水泳大会
- (2) 実施日 平成28年7月27日(水)
- (3) 会場 財光寺南小学校、日知屋小学校、東郷学園
- (4) 出場者 日向市内各校5・6年生代表(587名)
- (5) 実施種目 自由形(25m、50m)、平泳ぎ(25m、50m)、リレー(25m×4名)
- (6) 競技方法
  - ・タイムレースとする。
  - ・出場は、リレーを除き、1人2種目とする。(専門種目+一般100m)
  - ・競技は、原則として学年別、男女別とする。
  - ・細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 8:45～ 競技 9:20～11:45 閉会式 11:45～12:00
- (8) 表彰
  - 各会場で測定した記録を集計し、上位3位までを入賞として表彰する。
  - 参加児童全てに記録証を渡す。
- (9) 反省

今年度も昨年同様、3校開催であった。熱中症対策を考慮し、競技の合間に児童をプールに入れるなどして、体調不良者もなく、無事終わることができた。東郷学園会場は坪谷と東郷の2校で開催した。温かい雰囲気で行えているものの、次年度は多人数で競技できるよう、2会場に入るように予定している。各会場、模範泳を行い、十分にスタートや泳法の確認ができて良かった。また、競技の途中で水慣れの時間をとるなど、児童の体調に注意して実施することができた。折り返しの場所にも教師が付いたが、児童管理の先生にも手伝っていただき、リレーのつなぎを見た。役員数の不足もあるので、役員の配置は難しい。

課題もあるが、来年度も水泳大会を開催することで日向市の高学年の親睦と泳力の向上を深めていきたい。

## 2 陸上大会

- (1) 大会名 第46回日向市小学校陸上大会
- (2) 期日 平成28年10月28日(金)
- (3) 会場 大王谷陸上競技場
- (4) 参加者 日向市内小学校6年生(小規模校のみ5年生も) 599名
- (5) 種目  
○走り高跳び ○走り幅跳び ○ソフトボール投げ ○50mハードル走  
○短距離走(100m) ○長距離走(男子1000m、女子800m)  
○400mリレー(100m×4名)
- (6) 競技方法 ・選抜での出場はリレーを除き、1人1種目とする。どの児童も一般の短距離走に出場し、計2種目出場することとする。  
・「走」の競技は、スタンディングスタートとする。  
・靴は普段体育で使う運動靴とする。  
・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 9:30～ 競技 10:30～14:50 閉会式 15:00～
- (8) 表彰 ○ 上位3位までを入賞として表彰する。  
○ 参加児童全てに記録証を渡す。

### (9) 反省

前回は、悪天候により急遽当日の朝に中止を決断したこともありバタついた所があった。今回は、前回の反省を踏まえて、多少の雨でも実施という事を早目に全学校に伝え、それに応じた児童用テントの準備などを前日から行い、どちらの天候になってもスムーズに実施ができるように準備を整えた。

当日は、雨だったので、開会式を各自のテントの中から行ったり、一部の開会行事を省略したりするなどして、児童の体調の負担にならないように心がけた。

一般短距離走の場所が、ぬかるんでいたり、水溜まりができていたりしたので、ホームストレートではなく、バックストレートに変更するなどしてグラウンドの状況に応じて競技場所を変えて実施した。また、走り高跳びでは、マット上が滑りやすくなっていたので、場の安全性を高めるためにも、右側助走、左側助走と入れ替わる度にマットをずらして対応した。

今回は、雨の中での実施だったが、競技に参加した子どもたちや応援に来てくださった保護者の方たちから多くの称賛の声が聞こえた。また、先生方の協力もあり、すべて競技において安全面に留意しながら実施できたので大変良かった。今後も、雨の日の場合の計画を計画案の段階で早目に小体連の中で共通理解を図り、各学校にお知らせしていきたいと思う。しかし、全校分の児童用テントの準備、後片付けの際に大変時間や人員を要したので、今後は誰がいつするのかを明確に決めていく必要がある。

記録に関しては、男子は、400mリレーで2校が、100m選抜短距離走で1名が標準記録を突破した。女子は、100m選抜短距離走で1名、800m長距離走で2名、ソフトボール投げで1名、400mリレーで1校が標準記録を突破した。雨の中での実施だったので記録の伸びが思わしくなかった所も見られるが、大会の雰囲気を楽しみながら各学校の児童が楽しそうに交流を図ることができたことが大きな成果と言える。今後の雨の日での開催については、多くの協議と内容の精選が必要になってくるので、小体連としてもより良い運営に向けて尽力していきたい。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題及び副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるゴール型のゲームの在り方  
～「できる」喜びを実感させるタグラグビーの指導方法の工夫を通して～

#### 2 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説体育編のゴール型ゲームでは、“フラッグフットボール”“タグラグビー”というニュースポーツが例示されている。日向市は、児童生徒向けの一般指導者によるラグビースクールがあったり、日向高校のラグビー部が県内でもトップクラスの成績を残したりするなど、ラグビーが盛んにおこなわれている地域である。

タグラグビーは、ラグビーと共通する動きも多く、小学校の段階からタグラグビーを授業で取り組むことで、地域のスポーツ活動の活性化へとつながっていくことも十分に考えられる。

しかしながら、本市小学校におけるタグラグビーは、多くの学校で指導する側の教師が、競技名を知っている程度で競技に繋がる遊びやミニゲームなどの知識が乏しく、なかなか授業として取り組むことができていないという現状であった。

そこで本市では、昨年度から体育の学習におけるゴール型ゲームとしてタグラグビーをとりあげ、研究を行っている。昨年度は、「かかわる」ことを中心に研究を行った。本年度は、「できる」ことに重点をおいて、児童が主体的に運動に取り組めるための段階的・体系的な単元計画の工夫、タグラグビーの動きにつながる補助運動などの紹介を行うことを通し、日向市の教師の体育科授業の充実を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究の目標

タグラグビーの学習指導を通して、運動を「できる」喜びを実感し、進んで運動に取り組もうとする児童の育成について究明する。

#### 4 研究の仮説

タグラグビーの学習において、系統的・段階的な単元計画や年間指導計画を作成し、指導方法や学習資料の工夫・改善を行えば、児童がゲームに必要な技能を身につけ、「できる」ことを実感できる楽しい授業になるであろう。

#### 5 研究内容

##### (1) 実技研修

講師を招き、講演や実技を通して、タグラグビーの技能につながる補助運動の研修を行う。

##### (2) タグラグビーの単元計画の作成

低学年・中学年・高学年別に、動きや技の習得を段階的・系統的に配置した、タグラグビーの学習における単元計画の作成を行っていく。

##### (3) 児童が「できる」喜びを実感できるような1単位時間の学習の流れとワークシートの作成

補助運動を通して、児童が「できる」喜びを実感できるような1単位時間の学習の流れの工夫を考察・実践していく。またその際、教師が留意する場面、評価の視点なども検討していく。

## 6 研究の実際

### (1) 実技研修

夏季休業中に講師を招き、各校の体育主任や希望する教員に対し、タグラグビーの実技研修を行った。体づくりの運動や、タグラグビーの技能につながる補助運動を、実技を通して教えて頂いた。また、タグラグビーの特徴やルールについてなどの講義も行っていただいた。



研修を受けた教員は、各校で伝達講習会を行い、各校の教員への周知を図った。

### (2) タグラグビーの単元計画の作成

低学年・中学年・高学年ごとに、単元計画を作成した。

主な流れとして、①オリエンテーション、②補助運動を通じた技能の習得、③ゲームを通じた技能の習得・活用、④技能の活用である。それぞれの段階に応じて、特にどのような技能を身に付けるといいのかについても、具体的に記載した。また、指導する教員が扱いやすいように、授業1単位の基本的な学習の流れと、観点別評価も合わせて記載した。

	学習のねらい	学習の流れと主な活動	観点別評価項目			
			関・意・関	思考・判断	運動の技能	
第1時	○ 単元のねらいや学習の流れを知る。 ○ タグやボールの扱い方を知る。	① ねらいや学習の流れを知り、単元の見通しを持つ。 ② 役割を確認する。 ③ 学習の進め方やルールについて話し合う。 ④ ボールやタグを使った様々な準備運動を行う。 ⑤ 試しのゲームをする。 ⑥ 振り返り、整理運動をする。	◎①		◎	
第2時～ 第4時	○ 補助運動を通して、基本的な技能を身に付け、やさしいゲームで生かすことができる。 (例) カットイン、スワープ、チェンジオブベースなど	① 準備と準備運動をする。 ② 補助運動をする。 ③ 作戦タイムをする。 ④ 補助運動をする。 ⑤ やさしいゲームをする。 ⑥ ふりかえりをする。 ⑦ 整理運動をする。		◎	◎⑦	
第5時～ 第7時	○ ゲームを通して、チームで協力した攻守の動きを身に付ける事ができる。 (例) とぼしパス、くるり攻撃、クロス攻撃、Tキックアフェンス、フィンディフェンス など	① 準備と準備運動をする。 ② 作戦タイムをする。 ③ ゲームをする。 ④ 作戦タイムをする。 ⑤ ゲームをする。 ⑥ ふりかえりをする。 ⑦ 整理運動をする。		◎	◎⑤	
第8時	○ これまで学んだことを生かして、タグラグビーを楽しむ。	① 準備と準備運動をする。 ② トーナメント戦を行う。 ③ ふりかえりをする。 ④ 整理運動をする。	◎	◎⑥	◎	

### (3) 児童が「できる」喜びを実感できるような1単位時間の学習の流れとワークシートの作成

1単位時間の学習の流れは、「準備運動」、「めあての確認」、「補助運動」、「簡単なルールでのゲーム」、「作戦タイム」、「簡単なルールでのゲーム」、「振り返り」とした。児童が技能を身に付けることができるよう、授業前半に補助運動を取り入れた。授業後半では、その技能を生かして、ゲームを行った。



児童ができた時の称賛も、きめ細かく行っていた。

また、補助運動の内容については、ワークシートの児童の意見を反映させ、児童が必要と考えたものを選択して行った。

## 7 成果と課題

- 単元前半ではできなかった補助運動のパスランで成功した際、自然と拍手と歓声が起こるなど、「できる」ようになっただけでなく、「できる」喜びを児童が実感していた。
- パスやキャッチ、ランなど、実技研修で学んだ補助運動を取り入れたことで技能が身に付き、ゲームで生かすことができている。
- タグラグビーにつながる運動や活動を経験していない学年が多く、単学年での履修になっており、高い技能を身に付けるまでにはいかなかった。全学年が履修し、2学年を通してスムーズに技能を高めることのできる年間指導計画の作成が必要である。